



歴史と文化のいきづくまち

林田

ぶらり散策



感動体験 姫路まちなかあるき

林田はよしだ

林田の元々ところをご紹介します

～城下町のおもかげを訪ねて～

八幡神社



寛平5年(893年)5月に林田8か村の有志36人が国土安穏・子孫繁栄のために京都山城の石清水八幡宮から八幡の神を迎えて創建したと伝わる。江戸時代には林田藩主建部家が10代250年に渡り、産土神・祈願所として崇敬し、藩主政字(まさいえ)・政賢(まさかた)・政醇(まさあつ)が奉納した灯籠が3つ並んでいる。秋にはもみじが参道を彩る。

祝田神社(はふりだじんじや)



927年完成の延喜式に「祝田神社」の名が見え、「式内社」とよばれて古い歴史を持つ神社である。寛治7年(1093年)に林田が京都の上加茂神社の荘園となった時、貴船神社の御神体を迎え、当初から祀っていた同象女命と共に祀ったので「貴船神社」又は「貴船大明神」と呼ばれていた。建久3年(1192年)に社殿を再建した時に、社号を「貴船神社」とし、同象女命を祀った祝田神社はその奥宮に祀られた。明治16年4月に焼失し、再建時に祝田神社と改称する。また、近年では平成18年に公開された韓国映画「風のファイター」のロケ地にもなった。

林田温泉 ゆたりん



2007年4月1日にオープン。温泉は深さ1338m、約2億千万年前の堆積岩(丹波層群)の割れ目から湧き出している。無料駐車場やレンタサイクルを完備しており、林田散策の拠点として大変便利。散策の最後には、疲れを癒す温泉をぜひ。農産物の直売所やお土産、レストラン・里山など施設内外も充実。入湯料大人600円、小学生300円。休館日は毎週月曜日(但し、祝日の場合は翌日)

伊勢自然の里・環境学習センター



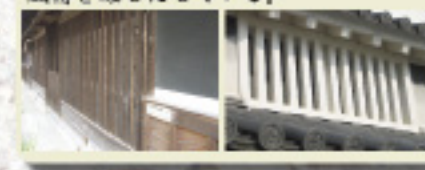
子どもから大人まで、様々な世代が楽しみながら環境の保全について学習できる場として、平成16年4月24日に開設した自然体験型の環境学習施設。この施設では、メダカやドジョウ、タガメやゲンゴロウなど、既に見ることが少なくなった生き物が生息できる環境を守り育てていくため「田んぼビオトープ」を中心とした生き物の生息空間を多様に整備するとともに、年間を通じてさまざまなイベントを開催している。開園時間は午前10時～午後4時30分。休園日は月曜日・12月28日～1月3日(但し、月曜日が祝日の場合は翌日)。無料駐車場完備。入園無料。



林田大庄屋旧三木家住宅

格子戸の町屋

林田町六九谷は旧因幡街道の街並みが残っており、格子戸の町家が昔の風情を醸しだしている。



長谷川家住宅(築設は裏側)

林田大庄屋旧三木家住宅

三木家は、美賀城主三木氏の出自と伝えられるが、天正8年(1580年)、羽柴(豊臣)秀吉による播磨侵攻により美賀城が落城した際、一族は各地に逃れた。当家は林田に来て帰農し、江戸時代を通じて林田藩の大庄屋をつとめた。敷地面積は約4,178㎡(約1,266坪)で、敷地内には主屋、長屋門、引き続き矩折れに長屋、土蔵(米蔵、内蔵、新蔵)の6棟の他、屋敷神、裏門等が存し、周囲は土堀等で囲まれ、南西には園池が広がっていた。また長屋西端には藩主を迎え入れるための御成門が建てられている。

主屋をはじめ6棟の建物は、平成2年(1990年)兵庫県指定重要有形文化財に指定された。また、古文書は5,068点に上り、古絵図も10数点が残され、内6点が附指定を受けている。

※公開は全曜日～月曜日、祝日(12月28日～1月4日は除く)の午前10時～午後4時。
※観覧料は一般300円、高・大学生200円、小・中学生100円(20人以上の団体は割引あり)。

敬業館



寛政6年(1794年)林田藩主建部政賢が藩校として建設。文久3年(1863年)に火災にあったが、当時の藩財政の厳しい状況であったにもかかわらず、その重要性から1年足らずで再建した。当時の藩校では、士族の子弟は8歳になると必ず入学し、16歳で卒業した。また、庶民の志願者にも入学を許すなど、士族共学として全国的にもめずらしい藩校であった。聖廟、練武場、文庫などの建物もあったが、現在では講堂だけが残り、明治以降は小学校、村役場、公民館にも活用された。平成4年に姫路市指定文化財となり、今も松平定信の書いた「敬業館」の額が講堂正面に掛けられている。



交通アクセス 姫路駅から神姫バス「林田」下車西へ約300m 山陽自動車道「山陽姫路西」より北へ約15分

